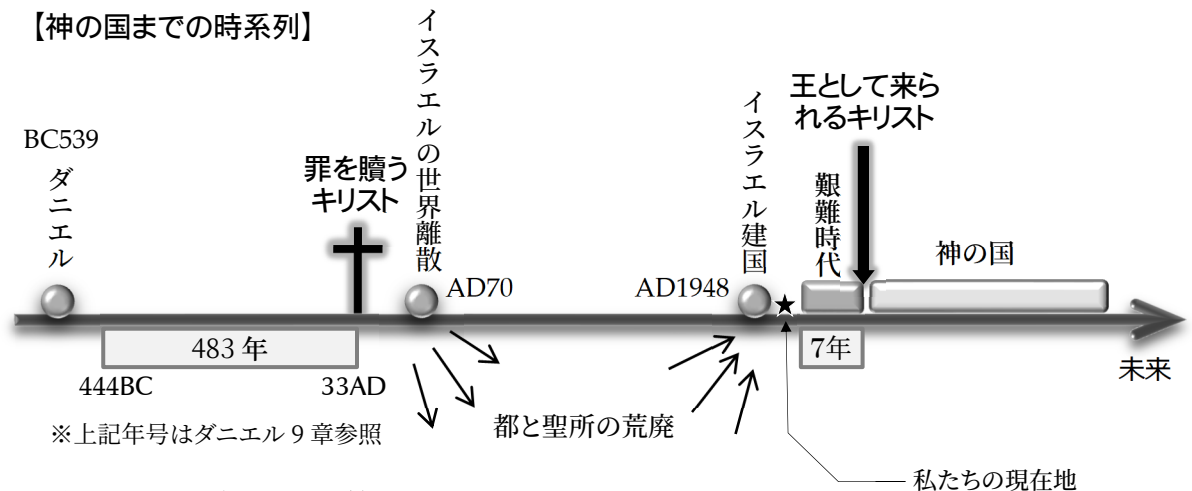


F. 再臨と神の国

旧約聖書は、将来キリストが来られる、という予告の書ですが、その目的について、大きく2つ記されています。キリストは、まず第一に、私たちの救いのために、死んで復活されるために来られます。このことは既に実現されました。そして第二には、全世界を裁き、神の国の王となるために来られます。このことは「今の世の終わりに」実現すると書かれています。キリストは間もなく来られます。



1. 神の国…2段階で実現する

- (1)1000年王国…この地上に実現。アブラハム契約の究極的实现。
- (2)新天新地…1000年王国の後、神は天と地を再創造する。文字通り、永遠で、死のない世界。

2. 再臨

- (1)旧約聖書は、キリストが王として来られ、神の国を実現する前に、「主の日」と呼ばれる、歴史上かつてなかった苦難の時期を必ず通らなければならないこと、この「主の日」の時期の最後にキリストが再び来られること(再臨)を予告している。
- (2)新約聖書には、一度目に来られたキリストご自身が将来の再臨について詳しく教えられた内容、さらに使徒たちを通してその時期や様子について神が啓示された内容が書かれている。

①終わりの前兆について…ルカ 21:7～36 <比>マタイ 24:3,14,15

②旧約聖書で予告されていた、全世界を裁き、王となるための再臨の他に、キリストを受け入れたクリスチャンたちを迎えるための再臨がある。この2つを区別するため、前者を「地上再臨」、後者を「空中再臨」または「携挙」と呼ぶ。(ゼカリヤ 14:3-5 1テサロニケ 4:13-18)

③キリスト者は「御怒りを受けないように定められている」(1テサロニケ 5:9)とあることから、空中再臨(携挙)は、世の終わりの「主の日」の前に起こると考えられ、キリスト者の多くは、7年の「艱難時代」の前、遅くとも後半3年半より前に空中再臨(携挙)がある、と信じている。

3. 裁き

1000年王国の終わりに、すべての存在した人間がその生涯の生き方に従って裁かれる。キリスト者はこの裁きは受けず、携挙の時に報いに関する裁きを受ける。(黙示 20:12, 2コリ 5:10)